



Linus Roache ライナス・ローチ

ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーで「リチャード二世」、「ジュリアス・シーザー」を演じるなど数々の舞台を経験。94年、映画「司祭」でゲイのカトリックの司祭役を演じ、一躍注目される。「鳩の翼」では財産がないため、恋人と結ばれない新聞記者役を好演した

「コ」リオレイナス」は並外れた軍事力を持ちながら、政治には無能な男を描いた戯曲です。ローマ時代の話ですが、ヒトラー政権の占領下でフランスのコメディ・フランセーズが上演したり、逆にヒトラー政権のプロパガンダにも利用されるなど、その時代のイデオロギーに応じて、さまざまな解釈で上演されてきました。それほど、訴えるものがある戯曲だからでしょう。

一方、「リチャード二世」は封建社会の崩壊を示唆した戯曲です。この2作を取って同時期にレイフ・ファインズにぶつけたのは彼の類まれな表現力なら、パワーを持ちつつも、それをうまく使いこなせなかった男の悲哀を立体的に浮き彫りにすることができると思ったからです。というわけで、2作を対比しつつ鑑賞して頂けたらと思います。

日本公演のお知らせ

「コリオレイナス」／「リチャード二世」

主催/TBS・ホリプロ

会場/東京・赤坂ACTシアター

チケット取り扱い/

ホリプロチケット予約センター

☎03・3490・4949

(S席¥10,000-/A席¥8,000-)

日時/2000年10月11日(水)～10月29日(日)

10月	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00	コ	コ	コ	休				リ	リ	リ	休				コ	コ	リ		
19:00	コ	コ	コ	コ	休	リ	リ	リ	リ	リ	休	コ	コ	コ	コ	リ			

(コ…コリオレイナス/リ…リチャード二世)



Jonathan Kent ジョナサン・ケント

90年にアルメイダ劇場の共同芸術監督に就任して以来、94年の「メディア」、95年の「ハムレット」はともにアルメイダからロンドンのウェストエンドへ進出。最終的にはブロードウェイでも絶賛された。今秋には「テンペスト」を手がける予定



アルメイダ劇場に隣接するカフェは近隣の住民の憩いの場。壁面にはこの劇場で人気を

味深い。リチャード二世は絶世の美青年と伝えられるが、レイフは顔を歪ませ、真っ赤にさせ、子供っぽさを強調し、美しさより愚かさを強調する。コリオレイナスは優れた軍人だが、母親の前では子供同然のマザコンとして登場し、客席から大きな笑いを呼んでいた。レイフは以前から、「喜劇には食指が動かない」と公言し、悲劇俳優としての地位を築いてきただけに、これは彼に対する宣戦布告とも取れる演出だ。レイフと同様、端整な二枚目で繊細な表現をするライナス・ローチを、敢えて2作品ともにレイフの敵役に配したのも、「才能を活かす男と活かさない男の光と影を強調したかったから」という。「クリエーター同士としてのぶつかりあいは当然ある。しかし、私はレイフのかつてない表情を引き出そうとしているのだ」というジョナサンの言葉には、だからこそ、並々ならぬ意欲を感じることができるとだ。

幸いにして、ロンドンと同じオリジナルメンバーによる初の日本公演が実現した。そこでは、どんな実がなるのか、いまから楽しみをしているのは私だけではないはずだ。

今 回の舞台では権力とは何か、人はリーダーシップをどう持つべきかを観客に問いかけています。以前、僕が演じたリチャード二世は悲劇性の強い設定でしたが、レイフは皮肉の効いたコメディとウィットに富んだ悲劇が混在した物語に挑んでいる。彼とは10年前、「リア王」で兄弟役を演じて以来の仲ですが、今回は彼を破滅させる役なのでやりがいがあります。(笑)

特に「コリオレイナス」で私は、相手を殺すか、自分が死ぬか、コリオレイナスに深い愛憎を抱く敵国の武将役です。コリオレイナスを見て、「妻を初夜を迎えるときより、胸がときめく」という台詞があるのですが、そういう男のプライドを賭けた危険な関係を楽しんでいただけたら嬉しいです。私としては、日本の武士道にも通じる話だと思えるのですが、いかがでしょう。